

06

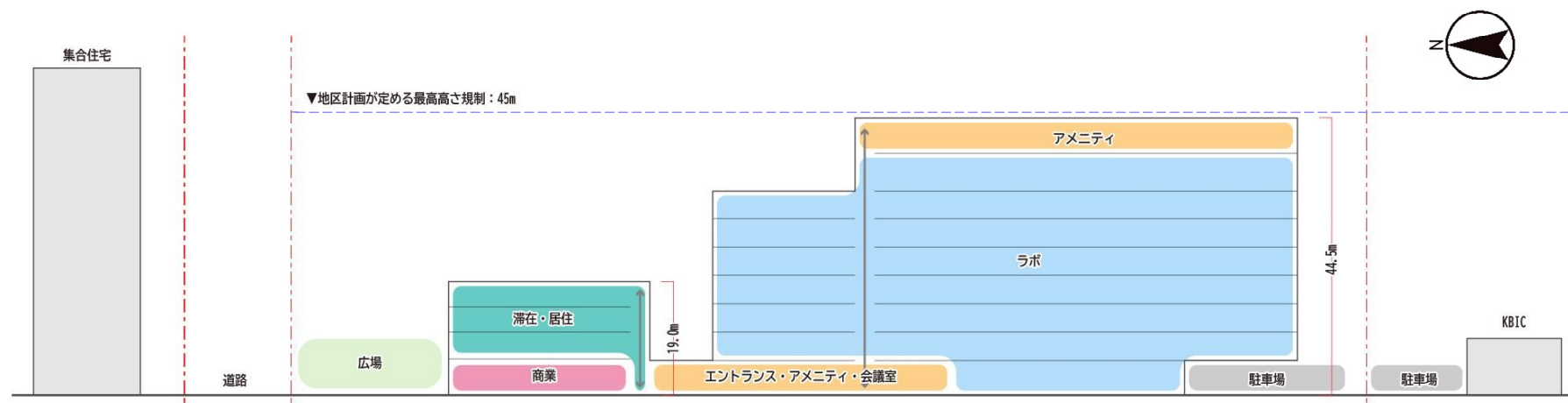
施設計画

6-1 施設規模・施設構成・構造

イメージプラン での施設規模

- 延床面積：約49,000㎡(容積率 約300%)
- 建築面積：約6,400㎡(建ぺい率 約33%)
- 建物高さ：約44.5m(ラボ棟：約44.5m／商業・住宅棟：約19m)

※イメージプランであるため、要件定義ではありません



施設構成・建物ボリュームの考え方

- 開発事業者との対話での意見等も踏まえ、容積を最大消化(300%)するボリュームを想定
- 北側の集合住宅に配慮し、北側の高さを抑える。敷地北側には広場空間を配置
- ラボ棟は地区計画が定める最高高さ45m近くまでボリュームを確保

構造の考え方

- オープンな空間を実現するため、柱間のスパンを大きく確保できる構造形式とする
- 免振層を設ける場合は中間階に設け、振動に配慮が必要なラボ機能は免振層よりも下階に配置する
- 環境負荷低減やCO₂削減につながる構造計画とする

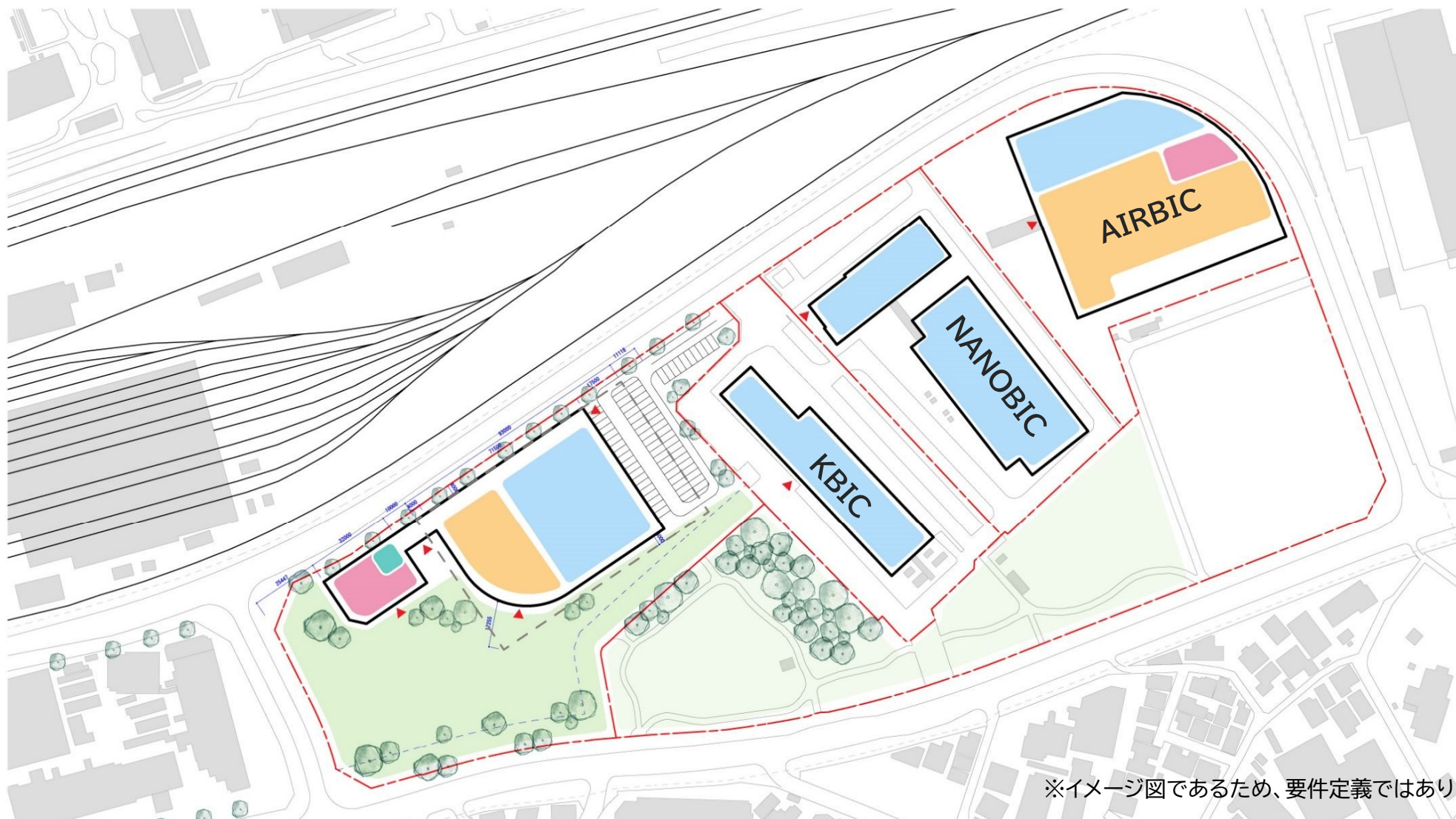
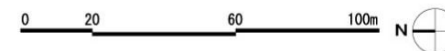
面積表(概算)

機能	面積
ラボ (コワーキング・オープンファクトリー等を含む)	約37,000～40,000㎡
アメニティ機能(例：交流ラウンジ、フィットネス、教育関連機能、保育園、クリニック等)	約4,000～5,000㎡
会議室	約1,200㎡
滞在機能	約2,000～5,000㎡
商業	約600㎡
合計	約49,000㎡

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

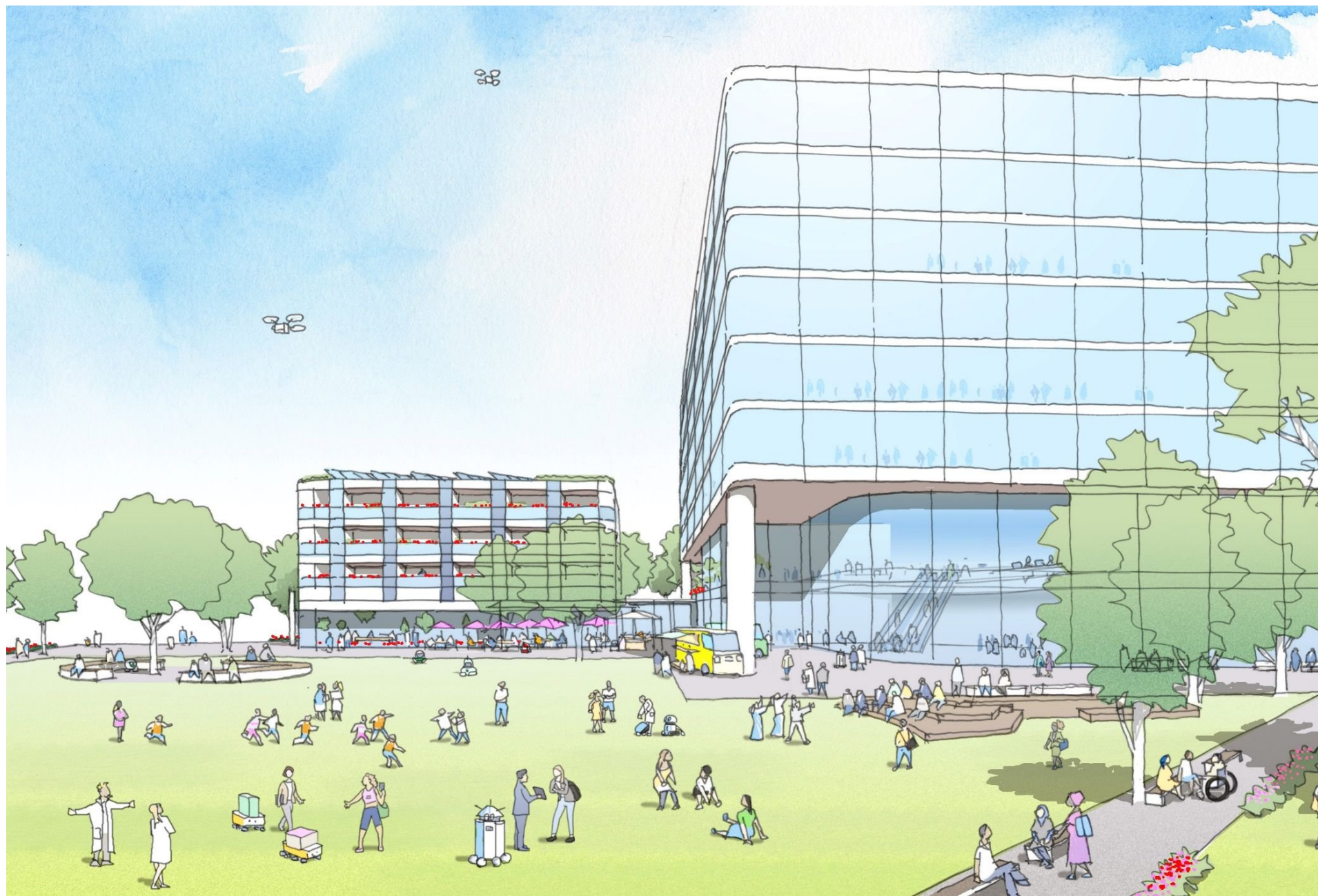
6-2 配置・平面構成

- オープンスペース(既存公園を含む)側の環境に配慮し、建物は線路側に寄せた配置とします。
- エリア全体の回遊性の向上に向けて、対象敷地内の動線のリニューアルをあわせて検討し、新川崎駅～新川崎・創造の通りの各施設～さいわいふるさと公園への動線に配慮します。
- 建物低層部をセットバックしピロティ空間とします。

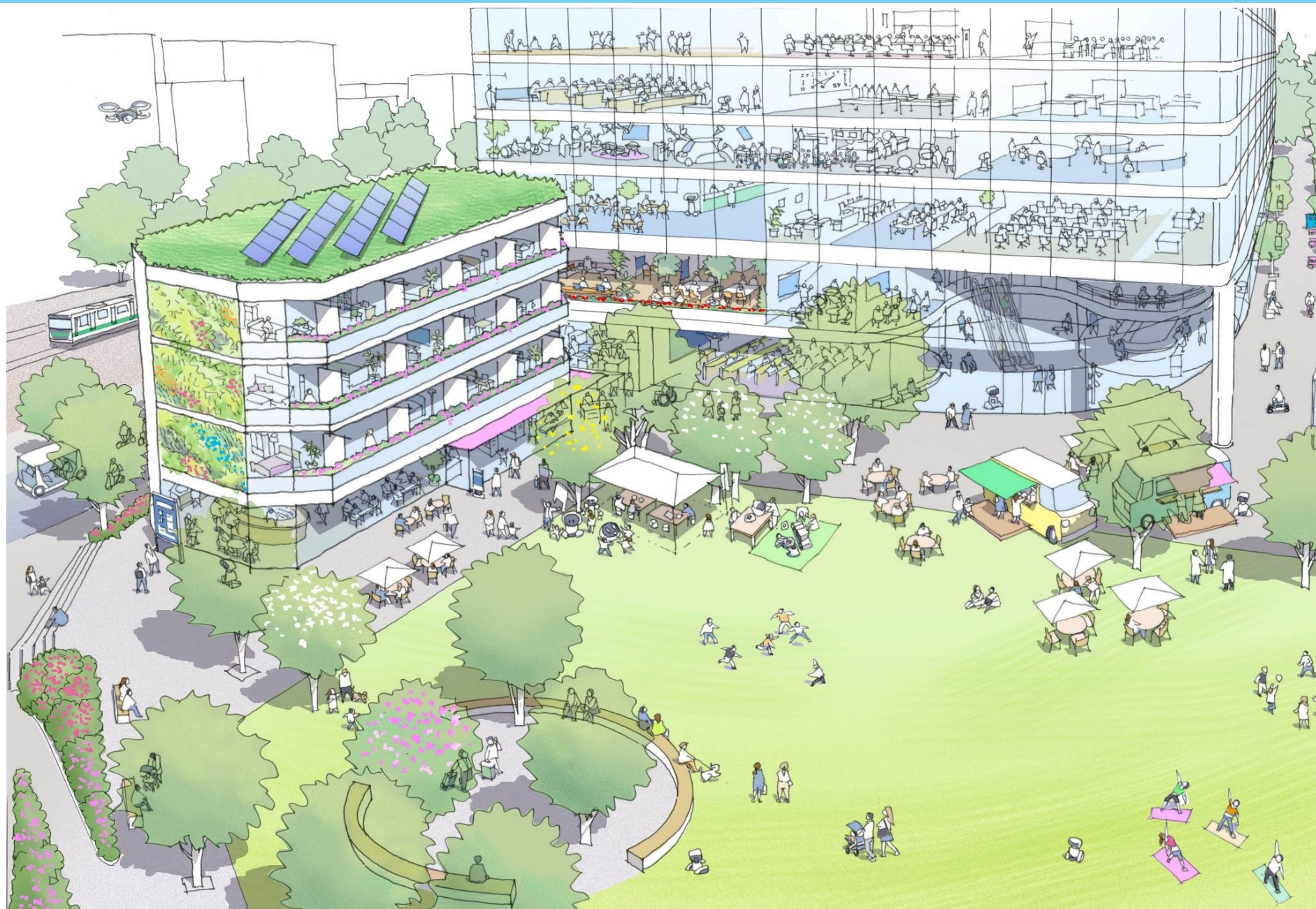


※イメージ図であるため、要件定義ではありません

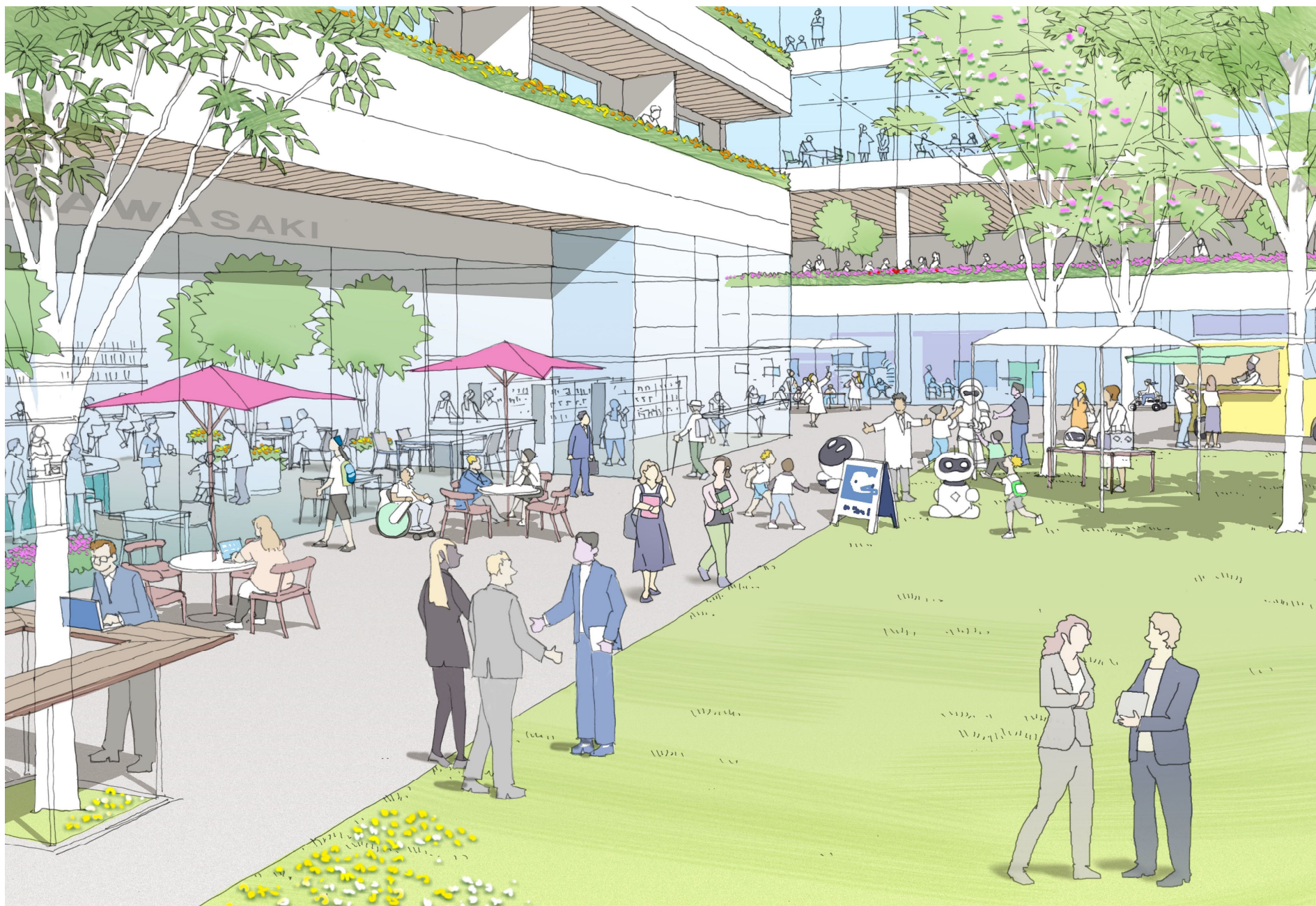
6-3 建物外観イメージ -①オープンスペースのイメージ



6-3 建物外観イメージ - ②諸室構成の全体イメージ

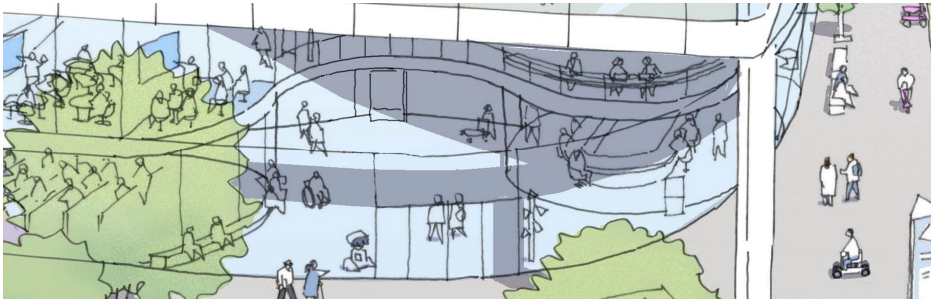


6-3 建物外観イメージ - ③低層部の全体イメージ



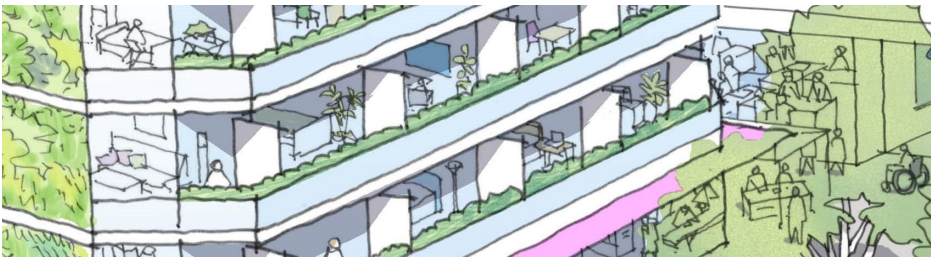
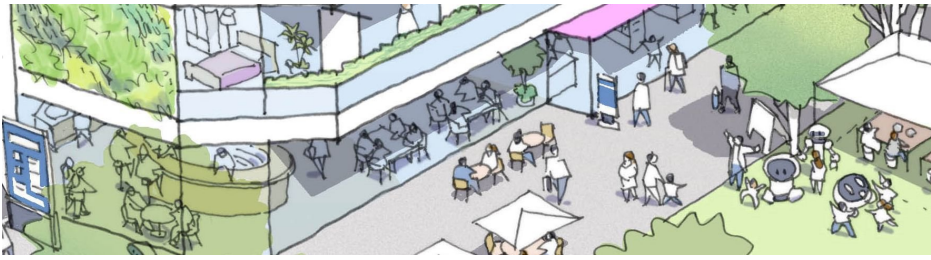
6-4 諸室構成 - ①全体共用部

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

機能	概要
メインエントランス 	【メインエントランス】 ● 施設全体のエントランス空間として配置 ● 受付や大会議室のホワイエ等の機能を兼ねる ● 配置階:1階/面積:約100～200㎡ 【サブエントランス】 ● セキュリティを考慮した個別アクセスが可能なラボの配置を想定
会議室 	● 間仕切りによる分割利用も可能な仕様とする ● 面積:約1,200㎡
コワーキングスペース・オープンファクトリー 	● コワーキングスペース・オープンファクトリーの他、オープンなミーティングスペースや展示スペース等を想定 ● 面積:約1,000～1,200㎡
その他アメニティ	● 研究施設に付加価値をもたらす機能 ● 面積:約4,000～5,000㎡

6-4 諸室構成 - ②専有部

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

機能	概要
ラボ 	● 必要に応じて特殊な仕様が求められる機能導入にも対応できるよう、一部は一定の天井高を確保したフロア ● 配置階：各階 ● 面積：約37,000㎡～40,000㎡ (コワーキング等を含む)
滞在機能 	● 企業・大学等の研究者・技術者等を対象とした短期～長期の滞在施設を想定 ● 面積：約2,000～5,000㎡
商業 	● 就業者、来訪者、地元住民が気軽に利用できるカフェ・レストラン・ショップ ● 配置階：1階 ● 面積：約600㎡

07

事業手法

7-1 事業手法の整理と評価

○本事業においては本市の施設利用面積が小さいため、財政的な負担が少なく、将来的な行政需要に応じた土地利用が可能となる定期借地権方式を採用します。

- 施設全体の中で、本市が設置・運営を検討している面積の割合が低く、公共施設の整備を目的とする、従来方式やPFI手法の導入は馴染むものではありません。
- 「定期借地権方式」と「公有地売却方式」の採用に当たっては、民間事業者の事業性やリスク判断の影響を大きく受けますが、これまでの民間事業者との対話やサウンディング等から、事業者は両方式での参画意向が高い状況です。
- 一方、量子イノベーションパーク実現に向けて、本市がしっかりと本事業に関与する必要があることや、将来的な行政需要に応じた土地利用の可能性も見据えると、現段階で土地を売却する公有地売却方式は適切ではありません。
- 定期借地権方式は、本市の財政負担を抑えながら、本市の一定の関与のもとで民間のノウハウを活かした施設整備が可能であり、同時に、安定的な地代収入と固定資産税等の税収が見込め、本市にとってメリットの高い事業手法です。
- 上記により、事業手法は「定期借地権方式」を採用します。

事業方式	従来方式	PFI(BTO方式)	定期借地権方式	公有地売却方式
概 要	- 設計、施工、維持管理をそれぞれ発注、契約締結 - 資金は市が一括調達	- 民間事業者が施設を建設した後、施設の所有権を市に移管したうえで、施設の運営を行う <u>公共施設を整備することが前提</u>	- 土地は市が所有、借地権を設定し民間事業者に貸付後、民間事業者が設計・施工、維持管理を実施 - 建設費は民間が負担	- 土地を民間に売却 - 市の関与がほぼできなくなる
資金調達	市	民間	民間	民間
建設主体	市	民間	民間	民間
土地所有者	市	市	市 (民間が借地)	民間
建物所有者	市	市	民間	民間
運営主体	市／指定管理者	民間	民間	民間
採用事例	KBIC、NANOBI 川崎市産業振興会館	カルッツかわさき はるひ野小学校	AIRBIC LiSE	-

7-2 事業手法の決定と概算事業費

- 市は、事業者に対して対象敷地に借地権を設定し、土地を貸し付けます。
- 事業者は新たな建物の設計、整備、運営、維持管理を行い、本市や慶應義塾、中核企業、スタートアップ等が入居し、量子イノベーションパークの形成と新たなK²タウンキャンパスの実現に向けて、関係者が協力・連携を行います。

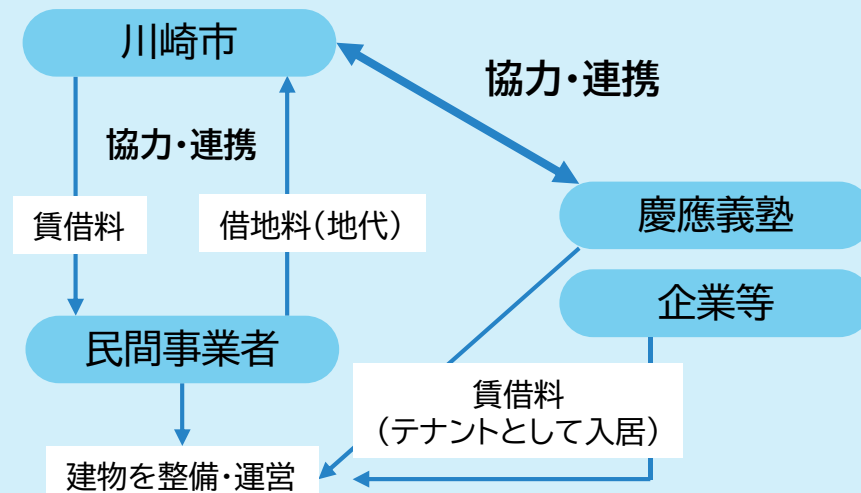
新たな建物(仮称)について

事業手法：民設民営(一部市が賃借し、使用)
 建物規模：最大49,200m²
 建物所有：民間
 維持管理：民間
 運営：民間(一部市が賃借し、使用)
 契約終了：更地返還

借地権者：民間事業者

底地権：川崎市

事業スキームについて



施設整備に係る総事業費の試算(概算)

調査・設計費	約12.5億円
工事費(解体含む)	約242億円
選定業務に係る費用	約0.5億円
合計金額	約255億円

- 本市の負担については、新たな施設内に市が設置するコワーキングスペース等の整備費用、賃借料のほか、企業・大学等の投資促進・立地誘導支援メニュー、K²プロジェクトの一時移転施設の整備費用等を想定
- 国の補助金やクラウドファンディング型ふるさと納税等の活用を検討し、それぞれの支出項目について本市の負担額の軽減を図ります。

※令和6(2024)年4月時点での建設物価等を反映させて算定

08

運営方針

8-1 運営方針

- 民間事業者により新たに整備・運営される施設は、企業・大学等が入居するラボ機能が中心となるものの、アメニティ機能、商業機能も含まれる複合的な施設となることから、本市の十分な関与のもと、新川崎・創造のもり全体の総括的な視野を有した運営方針を検討します。
- 新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能と、市内のイノベーション拠点との連携によるエコシステム形成の視点を踏まえた、既存施設の指定管理者との連携やマネジメント拠点の設置等、適切な運営体制の構築を目指した検討を行います。

運営に関する方針

- 新たに建設される施設は、新川崎・創造のもりの中核的な施設となるため、新川崎・創造のもり全体の機能強化に向けた取組も含めた運営の考え方を導入します。
- 本市が今後検討する立地誘導・投資促進制度を積極的に活用し、民間事業者が本市と連携しながら量子イノベーションを先導する量子・AI・半導体等の先端技術領域の企業・プロジェクトや、そうした技術を活用し新たな技術・サービスを開発する素材・創薬等の企業を国内外から誘致し、早期にプレイヤーの集積を図ります。
- さらに、新川崎・創造のもりが、本市におけるイノベーション・エコシステムの基盤とエンジンとしての役割を担うための機能についても実装します。
- 地区のエリアマネジメントの可能性も含め、本市及びかわさき新産業創造センター(KBIC)が連携し、研究者、来街者、周辺住民の利用を高める公共空間の利活用や、イベントスペース等を活用した積極的なソフト面の活動等について運営を行います。

施設の維持管理に関する方針

- 施設利用者の安全かつ快適な利用環境を提供するため、供用開始から事業期間終了までの間、施設の初期の機能及び性能等を常に発揮し、時代に応じてアップデートしながら最適な状態を維持します。
- ラボ機能を中心として、アメニティ機能、商業機能等を含む複合的な施設という特殊性を踏まえ、建物、設備・什器の保守管理、衛生管理、修繕、植栽維持管理等を適切に実施します。

09

期待される効果

9-1 経済波及効果

○これまでの検討結果等を踏まえ、6章で示したモデルプランを整備し、供用開始後企業等による研究開発活動が行われた場合の経済波及効果を分析しました。

- 新たな拠点整備に伴う、新たな需要として、①建設投資額 255.8億円、②施設の維持管理に係る費用 2.4億円／年、③企業の研究開発の結果により生じる売上高 207.6億円／年(※)と試算し、本市「平成27(2015)年川崎市産業連関表」を活用し経済波及効果を分析

※経済センサス活動調査(令和3年)を基に算出

経済波及効果

① 施設の建設に伴う効果	生産誘発額	353.5億円	誘発就業者数	2,457人
② 施設の維持管理に伴う効果(年間)	生産誘発額	3.4億円	誘発就業者数	22人
③ 企業等の研究開発に伴う効果(年間)	生産誘発額	248.8億円	誘発就業者数	3,110人

項目	対象部門		生産誘発額			誘発就業者数
				粗付加価値誘発額		
					雇用者所得誘発額	
① 建設効果	建設	第1次波及効果	300.5億円	137.9億円	103.4億円	2,113人
		第2次波及効果	53.0億円	35.2億円	11.2億円	344人
		合計	353.5億円	173.1億円	114.6億円	2,457人
② 維持管理効果 (年間)	建設	第1次波及効果	2.9億円	1.3億円	1.0億円	20人
		第2次波及効果	0.5億円	0.3億円	0.1億円	2人
		合計	3.4億円	1.6億円	1.1億円	22人
③ 運営効果 (年間)	情報通信機器	第1次波及効果	225.8億円	85.1億円	44.8億円	2,962人
		第2次波及効果	23.0億円	15.3億円	4.9億円	148人
		合計	248.8億円	100.4億円	49.7億円	3,110人

- 第1次波及効果： 直接効果(ここでは、①建設投資、②維持管理、③入居企業の売上)によって発生する原材料等の中間需要の生産を支えるためには新たな生産が必要となり、この生産を支えるためにまた新たな生産が喚起される。この繰り返しから生み出される生産額を合計したもの
- 第2次波及効果： 直接効果と第1次波及効果により誘発された生産活動を通じて発生した雇用者所得のうち、一部は消費として支出される。この支出によって喚起される生産額を合計したもの

9-2 新たな拠点整備に伴う雇用創出・税収見込

雇用創出効果

○新たな施設整備に伴う効果として、施設に入居する企業等で新たに722人が雇用され、そのうち433人が市内に在住すると想定されます。

※類似施設の面積あたりの就業者数から当該施設における就業者数を試算し、「令和2年国勢調査」都市別従業地・通学地の常住地等別データによる「川崎市内の従業者の中で川崎市を常住地とする者の割合」から試算（施設供用開始3年後に満床となった時点での就業者数）

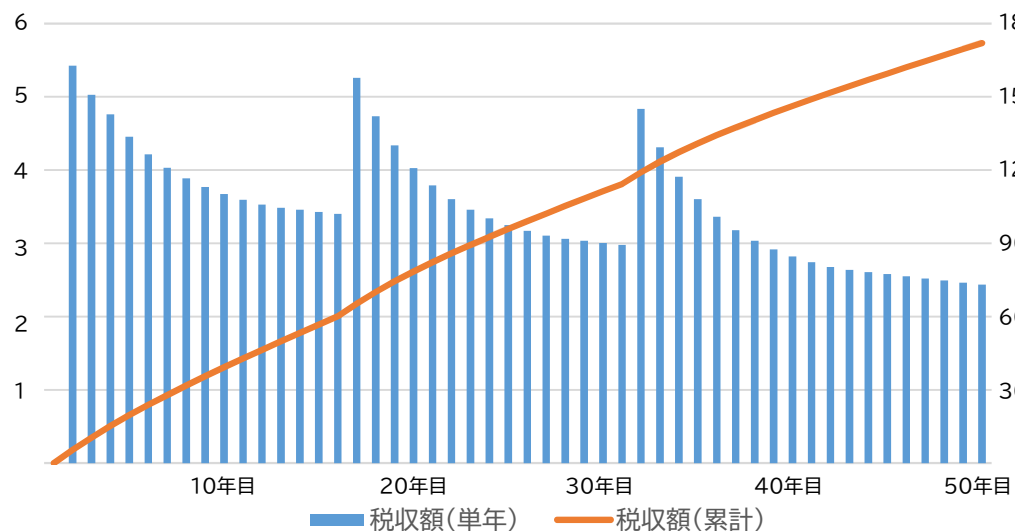
税収見込み

○土地の高度利用による新たな施設整備に伴う見込みとして、民間事業者による大規模施設整備のほか、最先端企業（大企業・スタートアップ）の入居と、研究開発を担う高度人材の市内集積により新たな税収が見込まれます。

	10年目	20年目	30年目	40年目	50年目
市税の累計額	約39億円	約79億円	約111億円	約146億円	約172億円

単位:億円(単年)

単位:億円(累計)



- 法人が納める4税目(固定資産税、都市計画税、法人市民税、事業所税)に加えて、新たな施設の立地に伴い、市内に居住する就業者が納める個人市民税の合計
- 「06 施設計画」で示す施設の面積規模から期待される税収額を試算

※試算は見込みであり、今後の民間事業者の提案内容、施設の利用条件により異なります。

- また、こうした効果を早期に発現させるため、税源涵養に資する支援制度も今後検討

9-3 拠点の実現により期待される効果

- 新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能、オープンイノベーションの風土等が駆動力となり、市内の研究開発・産業拠点と連動し、各拠点の技術・ビジネス・人材の成長を加速させ、川崎から次々と世界へ飛躍し世界をリードする産業を創出するイノベーション・エコシステムを形成します。
- 本市が世界から選ばれる都市へと成長・発展し続ける「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」を実現します。

拠点の実現による効果のイメージ

川崎版イノベーション・エコシステムから世界へ飛躍
成長した企業・人材が世界をリード

新川崎・創造のもりの機能更新による イノベーション拠点の実現による効果

- イノベーション・エコシステム形成によるユニコーン企業の創出
- 学生起業家や若手研究者が集い、世界をリードする人材を育成
- 市民生活を変革する研究開発成果の社会実装
- 科学技術や国際色に特色を持たせた教育機会の提供
- 地域のにぎわいや憩いの空間の形成
- 都市ブランドのイメージ向上と市民のシビックプライドの醸成

革新的な研究開発成果から世界を切り開く 新産業・グローバルスタートアップの創出

社会を変革する 成果の創出

- 社会課題の解決と社会の変革に貢献
- 人々の生活を豊かにし、安心安全な社会を実現する成果を生み出す

グローバル ビジネス

- 研究開発の成果をビジネスへと昇華させ、我が国の成長をけん引する新たな産業とグローバルスタートアップを創出

世界をリードする 人材輩出

- 世界トップの研究人材、ビジネスリーダーをこの地に集積させるとともに、我が国の将来の成長をリードする人材を育成する

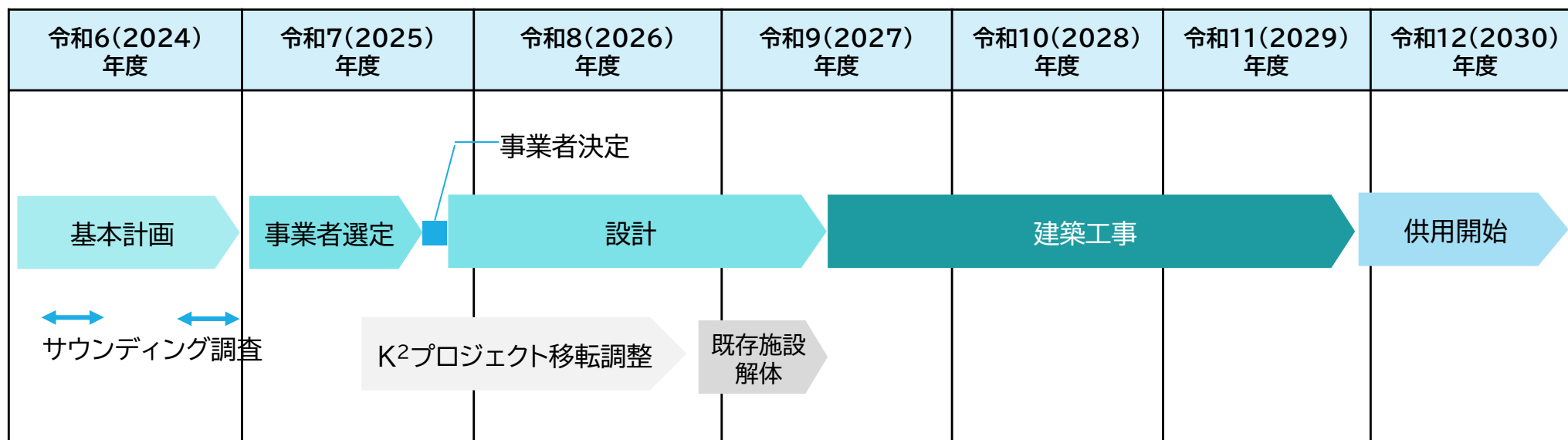
10

その他

10-1 事業スケジュール

- 本計画に基づき、サウンディング調査を行いながら、事業者公募のための要求水準等を取りまとめ、令和7(2025)年度に事業者選定を行います。
- 令和7(2025)年度からK²タウンキャンパスの研究プロジェクトの移転調整を進め、令和8(2026)年度に既存施設の解体に着手し、令和9(2027)年度から建築工事に着手する予定です。
- 工事期間については、本市が定める要求水準に基づく民間事業者の提案によることとなりますが、約2年半かかることが想定され、令和11(2029)年度の工事完成、供用開始を目指しています。

想定スケジュール



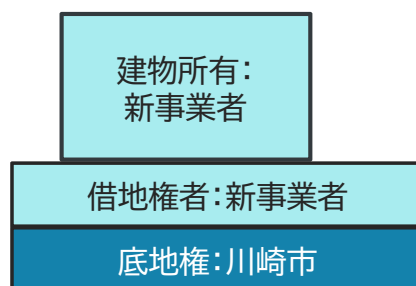
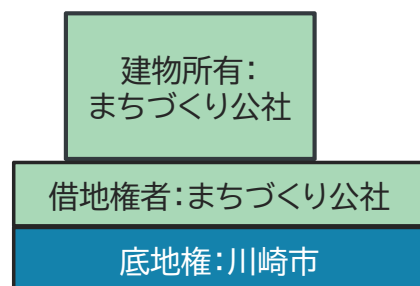
10-2 新たなスキームへの移行

- 対象となるK²タウンキャンパス敷地は、現在、市と（一財）川崎市まちづくり公社とが事業用定期借地権契約を設定しており、その契約期間が令和12（2030）年3月までとなっていることから、新たな事業者の選定後、両者合意の上で契約を前倒し解除し、その後、新事業者との定期借地権契約を締結する予定です。
- 既存建物の解体は、新事業者が施設の建築工事と一体的に施工することで、工期の短縮と整備費を圧縮する工夫を取り入れることが可能となります。

スキーム移行のステップ

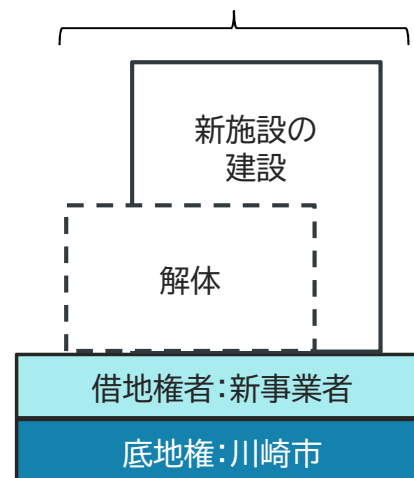
Step1

- ① 本市とまちづくり公社の借地権契約を両者合意の上で前倒し解除
- ② 本市と新たな事業者との借地権契約を締結
- ③ まちづくり公社から新事業者へ建物所有権を移転



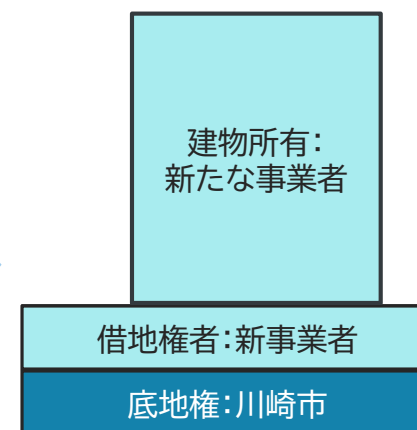
Step2

新事業者が既存施設の解体と新施設の建設を一体的に施工



Step3

施設の供用開始



【既存】借地権契約

【新】定期借地権契約

10-3 関係法令の整理

○施設整備にあたっては、前述の地区計画の基準とあわせ、関連する法令及び条例・基準等を踏まえ、施設内容に応じた整合等を図っていく必要があります。

関係法令、主な条例・基準等

主な法令	主な条例・基準等
● 都市計画法 ● 建築基準法 ● 消防法 ● 景観法 ● 高齢者・障害者等の移動等の円滑化促進に関する法律(バリアフリー新法) ● 建築物における衛生的環境の確保に関する法律 ● 水道法、下水道法、水質汚濁防止法 ● 騒音規制法、振動規制法 ● 土壌汚染対策法 ● 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	● 川崎市中高層建築物等の建築及び開発行為に係る紛争の調整等に関する条例 ● 川崎市福祉のまちづくり条例 ● 川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例 ● 川崎市都市景観条例 ● 川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例 ● 川崎市建築物における駐車施設の附置等に関する条例 ● 新川崎都市景観形成方針・基準
等	等

用語集

用語	フリガナ	解説	ページ
アーリー	—	スタートアップ企業・ベンチャー企業の成長ステージの区分のうち起業直後の段階を指します。	27
R&D	アールアンドディー	英語の「 R esearch and D evelopment」の略で研究開発を意味します。	32
IX	アイエックス	インダストリアル・トランスフォーメーションの略称で、デジタル技術による産業分野の変革をもたらす状態を指します。企業単体ではなく、産業全体の変化を目指します。	26
IoT	アイオーティー	Internet of Thingsの略で、あらゆるモノをインターネットに接続することであり、日本語ではモノのインターネットと訳されます。	31
IBM Quantum System One「Kawasaki」	アイビーエム クオントム システムワン カワサキ	令和3年7月に「新川崎・創造のもり かわさき新産業創造センター」に設置された「IBM Quantum Falcon プロセッサー」を登載するゲート型商用量子コンピューターの名称です。IBM社の量子コンピューターは設置場所に依らず、様々な地名が名前が付けられていますが、川崎市に設置された量子コンピューターは設置場所のとおりに「kawasaki」の名前が付けられています。	17
IPO	アイピーオー	英語の「Initial Public Offering」の略で、日本語では「新規公開株式」や「新規上場株式」と訳されます。	15
アクセラレーション(プログラム)	—	英語の「Accelerator」(加速させるもの)という意味から、スタートアップ企業や起業家の成長を促進する(加速させる)支援事業者や支援プログラムを意味します。	27
アントレプレナーシップ	—	新しい事業を創造するため、失敗やリスクを恐れず挑戦する精神や姿勢。起業家精神とも定義されますが、起業家にとどまらず、企業で働く人にも求められます。	14
イノベーション	—	オーストリアの経済学者として知られるヨーゼフ・シュンペーターが考案した理論のなかで使った言葉で、技術革新や新機軸、導入のことを指します。「新しい技術や考え方を導入して新たに価値を生み出す」ことを意味します。	3
インキュベーション	—	英語の「incubation」(ふ化、卵かえす)という意味から、新規事業の立ち上げをサポート・育成する活動を意味する言葉として使われています。	3
インシデント	—	英語の「incident」(出来事、事件)という意味から、問題が発生してアクシデントになる一歩手前の状況を指す言葉として使われています。	48
インターンシップ	—	学生が就職前に企業などで就業体験をすることです。様々な期間や形態の形式がありますが、一般的には、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこととして幅広くとらえられています。	29

用語	フリガナ	解説	ページ
インテグリティ	—	「誠実」、「真摯」、「高潔」などの概念を表す言葉です。企業においては、欧米企業を中心に、経営やマネジメントに必要な資質や持つべき価値観の一つとして使用されることが多く、日本でもインテグリティに注目する企業が増加しています。	48
ウェルビーイング	—	well(よい)とbeing(状態)からなる言葉で、個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定されます。短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義などの持続的な幸福を含む概念です。	26
HPC	エイチピーシー	HPC(ハイパフォーマンス・コンピューティング)の略で、膨大なデータに対し複雑な演算処理を高速に実行することを指します。学術や産業分野において、膨大なデータと AI に対応したユースケースを促進するため、HPCへの需要が高まっています。	31
エコシステム	—	本来、生態系の関係を表す言葉ですが、ビジネスの分野においても企業同士がそれぞれの技術やノウハウを共有しながら持続的に収益を上げる構造を指します。	3
SX	エスエックス	サステナビリティ・トランスフォーメーションの略称で、企業や社会の活動などがサステナビリティ(持続可能性)を重視したものに転換することや、そうした変革を実現する技術・サービスなどを指します。	26
SQAI	エスクーエーアイ	JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)(量子技術分野)」に採択された東京大学を代表機関とするプロジェクトである、サスティナブル量子AI拠点の略称です。量子ソフトウェアとHPC・シミュレーション技術の共創によりエネルギーの不安なしに情報技術を存分に活用し、量子AIに支えられた生産性革命や新産業創出が持続する社会をめざします。	18
mRNA	エムアールエヌエー	mRNAは、アンチセンス核酸(ASO)やsiRNAの創薬標的として、タンパク質と並んで非常に重要な生体高分子群です。近年、創薬研究において標的タンパク質の枯渇が指摘される中、新たな創薬標的として、mRNAはタンパク質と同等もしくはそれ以上の標的を供給できる可能性があるとの認識が高まっています。	12
LX	エルエックス	ライフスタイル・トランスフォーメーションの略称で、生活様式や生き方等を変革・革新する行動や、そうした変革を実現する技術やサービスを指します。	26
オープンイノベーション	—	イノベーションを達成するために、自社以外も含めたあらゆるリソースを活用して市場機会の増加を目指すことです。	4
オープン・クローズ戦略	オープン・クローズセンリャク	グローバルな市場に自社技術を普及させる「オープン戦略」と、コア技術を自社で守る「クローズ戦略」とを掛けあわせた戦略、使い分けた開発・事業戦略を指します。	25
オープンファクトリー	—	3Dプリンターやレーザーカッターなどの工作機械を備えた工房で、ものづくりやプロトタイプの作製をしたいスタートアップや学生・個人が、機器の利用をサポートするスタッフのもと、利用できる施設。	44

用語	フリガナ	解説	ページ
CAD／CAM	キャド/キャム	製品の設計から製造までをコンピューターで制御するシステムです。 CAD(Computer Aided Design)は、コンピューターを利用して設計を行うためのシステムで、CAM(Computer Aided Manufacturing)は、CADでつくられた形状データを基に工作機械やロボットを制御する加工データをつくるためのシステムです。	47
QX	キューエックス	クオantum・トランスフォーメーションの略称で、量子技術によって、社会の問題の解決や社会の転換を目指すこと、そうした社会を実現する技術やサービスを指します。	26
共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)	キョウソウノバ ケイセイシエンプログラム (シーオーアイネクスト)	JST(科学技術振興機構)が実施する、大学等の研究成果を社会に届けるための産学官連携を支援する事業。川崎市においてはサステナブルAI研究拠点の他に、4つのプロジェクトに採択されています。	18
キングスカイフロント	—	川崎市殿町地区(羽田空港の南西、多摩川の対岸)に位置する、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点です。約40haに及ぶこのエリアでは、健康・医療・福祉、環境といった課題の解決に貢献するとともに、この分野でのグローバルビジネスを生み出すことで、日本の成長戦略の一翼を担います。国家戦略特区・国際戦略総合特区・特定都市再生緊急整備地域に指定されているエリアであり、規制緩和・財政支援・税制支援等の様々な優遇制度の活用が可能です。	3
クライメートテック	—	クライメートテック(Climate Tech)は、CO ₂ 排出量の削減や地球温暖化対策など、気候変動対策に焦点を当てた技術やビジネスのことです。	19
クラウドプログラム	—	インターネットを通じてサービスを必要なときに必要な分だけ利用できるクラウドサービスの機能を決定するシステムプログラムです。クラウドプログラムの安定的な供給を確保することは経済安全保障上、重要であるため、国が支援しこれまでに11の事業を認定されています。うち、一つが東京大学を事業者とする量子コンピューターを活用したクラウドサービスの提供であり、新川崎・創造のもりにある量子コンピューターのチップのアップグレードに活用されています。	3
グラント	—	一般的に公的機関の補助金を指します。	27
クリーンルーム	—	空気中に浮遊する微粒子や微生物が限定されたレベル以下の清浄度に管理されて、不純物やゴミを持ち込まないようにするための部屋	9
経済安全保障	ケイザイアンゼンホショウ	国が、自国の経済活動や国民生活に対する脅威を取り除き、経済体制や社会生活の安定を維持するために、エネルギー・資源・食料・技術などの安定供給・安全性を確保するための措置を講じることです。	3
経済センサス	ケイザイセンサス	事業所及び企業の経済活動の状態を明らかにし、日本の包括的な産業構造を明らかにするとともに、事業所・企業を対象とする各種統計調査の実施のための母集団情報を整備することを目的とし、総務省統計局が実施しています。	15

用語	フリガナ	解説	ページ
ゲート型量子コンピューター	ゲートガタリョウシ コンピューター	量子ビットの重ね合わせ状態を制御するために量子ゲードを組み合わせて量子回路を構築する量子コンピューターを指します。これに対して、アニーリング操作により、最適解を見つけるコンピューターをアニーリング型の量子コンピューターといいます。	3
古典コンピューター	コテンコンピューター	量子力学の原理で動作する量子コンピューターに対して、古典力学の原理で動作するコンピューターを指します。0または1の2進法を用いた計算方式で、私たちが日常で使うコンピューター全般が該当します。	16
コワーキング(スペース)	—	さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペースのことです。「Co(=共同の、一緒に)」「Working(=働く、仕事をする)」「Space(=場所)」を語源に、それぞれを掛け合わせて作られた言葉で、「共同で働く場所」という意味があります。	28
サービス付きアパートメント	—	ホテルとアパートの中間の機能を持った住居で、家具家電の整備や室内の清掃などのサービスが提供されるため、入居してすぐに快適に生活することが可能となります。	50
サイエンスカフェ	—	科学技術の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、科学の専門家と一般の人々が、カフェなどの比較的小規模な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場をつくろうという試みです。	14
サイバー空間	サイバークウカン	コンピューターやネットワーク上に構築された仮想的な空間を指します。	12
サプライチェーン	—	製品や商品が消費者に届くまでの一連の生産・流通プロセスを指します。自社だけではなく、他社をまたいでのモノの流れを捉えるため、サプライチェーンを管理し、製品の開発から製造・販売までのプロセスの最適化が求められます。	17
GX	ジーエックス	グリーントランスフォーメーションの略称で、化石燃料をクリーンエネルギーに転換して脱炭素社会を構築しようという取組やそうした社会の転換を目指すこと、そうした社会を実現する技術やサービスを指します。	26
シード	—	スタートアップにおける成長ステージの区分のうち、会社設立前後の段階をさします。シードは日本語で「種子」や「芽が出る前の状態」を意味することから転じて、起業前のスタートアップを表します。	27
シームレス	—	シームレスとは「継ぎ目がない」という意味の言葉で、ビジネス用語では、複数の要素や機能・サービスが連携していて利用者にとって途切れのないサービスを受けることが可能となるよう状態を表現しています。	39

用語	フリガナ	解説	ページ
JST	ジェイエスティー	日本の科学技術・イノベーション政策の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用などを行っています。	18
資金調達	シキンチョウタツ	スタートアップが事業の成長を加速させるために、資金を募ること。「投資家から出資してもらう方法(エクイティ・ファイナンス)」と「金融機関から融資してもらう方法(デット・ファイナンス)」の2つがあります。	12
次世代半導体	ジセダイハンドウタイ	主に演算に使われるロジック半導体においては、回路を構成する線の幅が狭いほど密度の高い半導体が作れ、高度な演算ができ、消費電力も抑えられます。現時点では、3nmが最小ですが、日本においてもRapidus社が3nm以降の次世代半導体開発に乗り出しています。	13
シミュレータ	—	システムの挙動を確認するために、同じ法則に支配される他のシステムや計算によって模擬すること。量子コンピューターは、計算エラーが多く、量子コンピューターの動作を模擬したシミュレータを用いて研究開発を行っています。	18
冗長化	ジョウチョウカ	コンピューターやシステムに障害が発生した場合に備えて、予備装置を普段から配置、運用すること。	56
スタートアップ(企業)	—	決まった定義はありませんが、創業間もない企業で、数年以内の圧倒的成長を前提にベンチャーキャピタルや個人投資家(エンジェル投資家)等から多額の資金を調達している、もしくは調達を目指している研究開発型のベンチャー企業などが一般的にはスタートアップと呼ばれています。	3
セキュリティクリアランス	—	安全保障などに関わる機密情報にアクセスできる資格者を政府が認定する制度です。日本においても、令和6年5月にセキュリティ・クリアランス制度のための法律が国会で可決・成立しました。	48
Society5.0	ソサイエティゴテンゼロ	狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新たな社会です。サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会として、提唱されています。	3

用語	フリガナ	解説	ページ
脱炭素社会	ダツタンソシャカイ	温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会	3
通信アーキテクチャ(ネットワークアーキテクチャ)	ツウシンアーキテクチャ(ネットワークアーキテクチャ)	コンピュータネットワークの基本的なシステム設計についての約束を定めたものです。	13
DX	ディーエックス	デジタルトランスフォーメーションの略称で、デジタル技術で社会や生活を変革を目指すこと、そうした社会を実現するための技術やサービスを指します。	3
デジタルサイネージ	—	デジタル技術を使用して情報や広告を表示する技術	49
デジタルツイン	—	リアル(物理)空間にある情報・データを集め、収集したデータを元にサイバー(仮想)空間上でリアル空間を再現する技術です。	26
テストベッド	—	システム開発時に、実際の使用環境に近い状況を再現可能な試験用環境、または試験用プラットフォームの総称です。	13
ナノ・マイクロ技術	ナノ・マイクロギジュツ	ナノマイクロ技術は、ナノメートル(10の-9乗メートル)やマイクロメートル(10の-6乗メートル)といった極めて微細なスケールでの加工技術やデバイスの設計・製造を指します。	9
ネイチャーポジティブ	—	日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。これまでの自然環境保全の取り組みだけでなく、経済から社会、政治、技術までの全てにまたがって改善を促していくことで、自然が豊かになっていくプラスの状態にしていこうというのがネイチャーポジティブの趣旨です。	26
NEDO	ネド	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(New Energy and Industrial Technology Development Organization)の略称 経済産業省が所管する独立行政法人。持続可能な社会の実現に必要な研究開発を支援する研究開発法人です。	27
ハプティクス	—	ロボットの力加減を調整し、ありのままの感触が伝わるよう制御し、モノにやさしく触れたり、遠隔でデバイスを作用させることで人が直接作業することが困難な作業を代替させることができる技術です。	12

用語	フリガナ	解説	ページ
ハンズオンセミナー	—	実際に手を動かして学ぶスタイルのセミナーです。	18
半導体	ハンドウタイ	金属などの導体と、ゴムなどの絶縁体の中間の抵抗率を持つ物質。電気の流れをコントロールすることができ、コンピュータのCPUやスマートフォンなどの電子機器に欠かせない部品となっています。	3
ピッチイベント	—	一般的にスタートアップ企業が投資家などに対して、自社の技術やサービスをプレゼンテーションしたり、投資家の支援を行う企業や投資会社が、スタートアップ企業に対してプレゼンをする機会を提供したりするイベントのことを指します。	30
Beyond5G	ビヨンドファイブジー	5Gの「高速・大容量」「低遅延」「多数同時接続」といった機能の高度化に加え、「超低消費電力」「超安全・信頼性」「自律性」「拡張性」といった持続可能で新たな価値の創造に資する機能を持つ5Gの次の世代の移動通信システムです。	3
プレシード	—	スタートアップの資金調達において最も早い段階。企業の発展段階や資金調達が「シード」よりも前の段階を指します。この段階では、創業者もしくはその家族やサポーター、あるいはエンジェル投資家と呼ばれる一部の個人投資家から資金を調達します。	27
ペルソナ	—	サービスや商品を利用してくれそうな具体的・仮想的なユーザー像です。	30
ベンチャーキャピタル(VC)	ベンチャーキャピタル (ブイシー)	成長段階にある新興企業やベンチャー企業に対して出資する組織です。	12
ポジティブなM&A	ポジティブナエムアンドエー	事業の飛躍的な発展やまとまった利益の確保等の積極的な理由で行われる、売り手側にもメリットがあるM&Aを指します。	15
マイクロモビリティ	—	通常の自動車よりもサイズが小さい、1～2人用の乗り物。具体的には、小型自動車、電動キックボード、電動バイクなどを指します。	54
マテリアル	—	素材の開発・製造を行う産業を指します。	27

用語	フリガナ	解説	ページ
南渡田地区	ミナミワタリダチク	川崎臨海部の創成期から操業を続けてきた旧日本鋼管株式会社創業の地であり、本市の産業都市としての発展を支えた象徴的な場所です。次世代の臨海部を牽引する新産業拠点の形成に向けて、クライメイトテック、マテリアルの先端拠点を目指しています。	19
ユニコーン(ベンチャー)企業	ユニコーン (ベンチャー) キギョウ	評価額が10億ドルを超える未上場のスタートアップ企業で、アメリカや中国に多く、日本国内では10社未満です。	15
ユニバーサルデザイン	—	すべての人にとって使いやすく、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいいます。	28
ライフサイエンス分野	ライフサイエンスブンヤ	生物が営む生命現象の複雑かつ精緻なメカニズムを解明することで、その成果を医療・創薬の飛躍的な発展や、食料・環境問題の解決など、国民生活の向上及び国民経済の発展に大きく寄与するものとして注目を浴びている分野です。	3
量子インターネット(量子通信システム、量子中継器)	リョウシインターネット (リョウシツウシンシステム、 リョウシチュウケイキ)	量子技術による量子データ伝送ネットワークです。物理的に離れた場所に設置された複数の量子デバイスのネットワークをまたがった量子ビットをやり取りしあうインターネットシステムを指します。	12
量子コンピューター ・量子コンピューティング技術	リョウシコンピューター ・リョウシコンピューティング ギジュツ	量子力学独自の性質を利用して、最も強力な古典的なコンピューターの能力を超えた問題を解決する、最先端のコンピューター・サイエンスの新興分野です。	3
量子シミュレーション	リョウシシミュレーション	量子力学の原理を用いて、複雑な物理現象やシステムの挙動を再現する技術です。新しい素材の開発や創薬等の分野で活用が期待されます。	18
量子ビット	リョウシビット	量子情報の最小単位。古典コンピューターではビットは0と1のどちらかの状態しかとれないのに対して、量子ビットは0と1の重ね合わせ状態を取ることが可能です。	18